

# 環境試料(大気浮遊じん及び大気降下物)中の 核種分析調査結果 (令和6年度)

# 調査の概要

案

## 1. 評価の対象とする調査

環境放射線等モニタリング調査(離島調査)

環境放射能水準調査(水準調査)

## 2. 調査試料及び調査地点

調査試料	調査地点	
	離島調査	水準調査
大気浮遊じん	8道県 10地点	47都道府県 48地点
大気降下物	4道県 4 地点	47都道府県 47地点

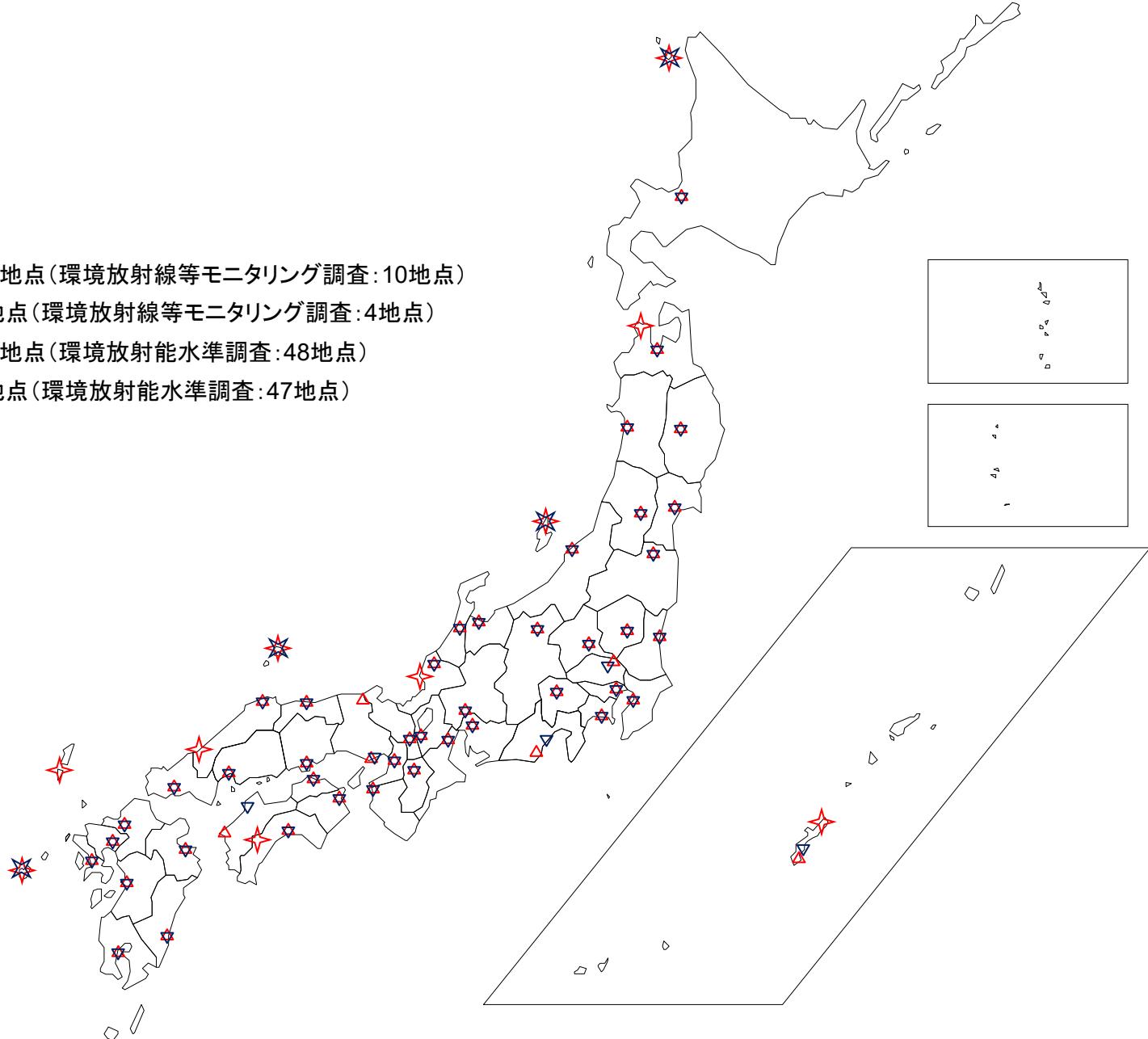
## 3. 調査方法

Ge半導体検出器を用いた $\gamma$ 線スペクトロメトリー

# 調査地点

案

- ❖ 大気浮遊じん 採取地点(環境放射線等モニタリング調査:10地点)
- ❖ 大気降下物 採取地点(環境放射線等モニタリング調査:4地点)
- △ 大気浮遊じん 採取地点(環境放射能水準調査:48地点)
- ▽ 大気降下物 採取地点(環境放射能水準調査:47地点)



# 大気浮遊じんの調査結果

エアサンプラー(大気採取機器)を使用し、大気中に浮遊している「ちりやほこり」をろ紙上に集め、分析を行うことにより、大気中における放射性物質の状況を把握することができる。

# 大気浮遊じん(離島調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする 調査結果	令和6年4月 – 令和7年3月採取分 (8道県 10地点) 連續捕集、3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	令和3年4月 – 令和6年3月採取分 (8道県 10地点) 連續捕集、3か月ごとに分析
比較対象② [東京電力福島第一原子力発電所 事故前3か年]	平成20年1月 – 平成22年12月採取分 (8道県 10地点) 連續捕集、3か月ごとに分析

# 離島調査における大気浮遊じんの調査結果一覧

案

γ線スペクトロメトリー

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和6年4月－令和7年3月			令和3年4月－令和6年3月			平成20年1月－平成22年12月		
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
利尻	ND	ND	1.4 – 1.7	ND	ND	1.5 – 2.8	ND	ND	ND – 3.1
竜飛岬	ND	ND	1.8 – 2.3	ND	ND	1.9 – 3.0	ND	ND	1.6 – 3.9
佐渡関岬 <sup>※1</sup>	ND	ND	1.6 – 3.1	ND	ND	1.7 – 3.2	ND	ND	ND – 4.3
越前岬	ND	ND	1.2 – 2.6	ND	ND	1.3 – 4.1	ND	ND	2.2 – 5.7
隱岐	ND	ND	1.4 – 2.8	ND	ND	1.5 – 6.5	ND	ND	ND – 4.5
蟠竜湖	ND	ND	1.3 – 3.1	ND	ND	1.2 – 4.2	ND	ND	ND – 4.7
樅原	ND	ND	1.2 – 2.8	ND	ND	1.1 – 4.7	ND	ND	ND – 4.8
対馬 <sup>※2</sup>	ND	ND	1.3 – 3.0	ND	ND	1.8 – 4.3 (15)	ND	ND	ND – 4.6
五島	ND	ND	1.5 – 2.9	ND	ND – 0.010	1.4 – 5.4	ND	ND	ND – 4.9
辺戸岬	ND	ND	1.1 – 3.3	ND	ND	1.0 – 4.1	ND	ND – 0.0095	ND – 4.9

Ge半導体検出器によるγ線スペクトロメトリーで検出可能な核種のうち、代表的な人工放射性核種である<sup>134</sup>Cs及び<sup>137</sup>Csを記載した。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の<sup>137</sup>Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる<sup>137</sup>Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取終了日に減衰補正した。

詳細な調査結果は参考資料3に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※1 佐渡関岬測定所は、暴風雪の影響により停電が発生し、令和3年1月7日～令和4年5月25日の期間は試料が採取されていない。

※2 対馬測定所は、令和5年6月28日～9月19日の期間で落雷により測定機器不具合が発生した。令和5年度第2四半期は、吸引量が少ない(通常の1/9程度)ため、参考値としてカッコ内に記した。

# 大気浮遊じん(水準調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする 調査結果	令和6年4月 – 令和7年3月採取分 47都道府県 48地点 3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	令和3年4月 – 令和6年3月採取分 47都道府県 48地点 3か月ごとに分析
比較対象② [東京電力福島第一原子力発電所 事故前3か年]	平成20年1月 – 平成22年12月採取分 37府県 37地点 3か月ごとに分析

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(1)

案

γ線スペクトロメーター

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月－令和7年3月			令和3年4月－令和6年3月			平成20年1月－平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
北海道札幌市	ND	ND	1.6 - 2.6		ND	2.0 - 3.6	-	-	-	H24/4/25	
青森県青森市	ND	ND	1.7 - 2.7	ND	ND	1.6 - 4.3	-	-	-	H24/4/20	
岩手県盛岡市	ND	ND	1.4 - 3.7	ND	ND	1.8 - 5.7			1.8 - 6.1	S63/4/6	
宮城県仙台市	ND	ND - 0.0031		ND	ND - 0.0057		-	-	-	H24/4/20	
秋田県秋田市	ND	ND	2.2 - 3.6	ND	ND	1.6 - 7.7		ND	1.7 - 3.5	H4/4/27	
山形県山形市	ND	ND	2.3 - 2.4	ND	ND	1.9 - 4.7		ND	1.4 - 4.6	H1/4/14	
福島県福島市	ND	ND - 0.014	1.5 - 2.4	ND	0.0073 - 0.027	2.0 - 4.1	-	-	-	H26/4/8	
茨城県ひたちなか市	ND	ND	2.5 - 4.2	ND	ND - 0.0046	2.5 - 6.4	ND	ND	3.9 - 5.5	S63/4/1	
栃木県宇都宮市	ND	ND - 0.0094		ND	ND		ND	ND		S63/1/21	
群馬県前橋市	ND	ND	1.5 - 2.6	ND	ND	1.2 - 3.7		ND	1.1 - 4.2	H2/10/31	
埼玉県加須市	※	ND	ND	1.2 - 2.6	ND	ND	0.88 - 3.9	ND	1.4 - 9.3	H20/4/3	

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

空欄は環境放射線データベースに核種分析結果が登録されていない。

「-」は調査開始前を示す。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

詳細な調査結果は参考資料4に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※ 埼玉県の採取地点は、平成25年7月よりさいたま市から加須市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(2)

案

γ線スペクトロメーター

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月－令和7年3月			令和3年4月－令和6年3月			平成20年1月－平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
千葉県市原市	ND	ND	1.5 - 3.3	ND	ND	1.3 - 3.3	ND	ND	2.9 - 6.9	H3/4/4	
東京都新宿区	ND	ND	1.3 - 2.3	ND	ND	1.1 - 3.2	-	-	-	H24/4/5	
神奈川県茅ヶ崎市	ND	ND	1.2 - 2.9	ND	ND	1.4 - 3.9	ND	ND	1.2 - 4.0	H1/3/28	
新潟県新潟市	ND	ND	1.4 - 3.5	ND	ND	1.7 - 4.2		ND	2.8 - 5.0	S63/4/18	
富山県射水市	ND	ND	1.6 - 2.8	ND	ND	1.0 - 2.5		ND		S63/4/20	
石川県金沢市	ND	ND	1.3 - 2.9	ND	ND	1.1 - 3.5	-	-	-	H24/4/20	
福井県福井市	ND	ND	1.6 - 4.2	ND	ND	2.9 - 7.6		ND	1.7 - 5.6	S63/4/12	
山梨県甲府市	ND	ND	1.9 - 4.4	ND	ND	2.0 - 5.3		ND	2.3 - 6.3	S63/4/21	
長野県長野市	ND	ND	1.6 - 3.8	ND	ND	2.0 - 4.4		ND	1.3 - 6.5	S63/10/17	
岐阜県各務原市	ND	ND	1.2 - 3.7	ND	ND	1.3 - 5.4	ND	ND	1.2 - 4.4	H2/11/21	
静岡県牧之原市 <sup>※</sup>	ND	ND	2.9 - 4.9	ND	ND	2.6 - 5.8		ND	2.2 - 7.0	S63/4/20	
愛知県名古屋市	ND	ND	1.3 - 2.6	ND	ND	1.6 - 5.0		ND	1.3 - 4.3	S63/1/20	

※ 静岡県の採取地点は、平成28年10月より御前崎市から牧之原市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(3)

案

γ線スペクトロメトリー

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月－令和7年3月			令和3年4月－令和6年3月			平成20年1月－平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
三重県四日市市	ND	ND		ND	ND			ND		S63/10/3	
滋賀県大津市	ND	ND	2.2 - 3.9	ND	ND	1.9 - 7.0		ND	1.1 - 5.7	H1/10/21	
京都府京都市	ND	ND	1.9 - 2.8	ND	ND	1.4 - 4.7		ND	2.3 - 5.4	S63/4/11	
大阪府大阪市	ND	ND	1.0 - 2.6	ND	ND	1.0 - 9.0			1.7 - 9.7	S63/10/3	
兵庫県神戸市 <sup>※1</sup>	ND	ND	1.7 - 3.6	ND	ND	1.5 - 5.3		ND	1.7 - 5.1	S62/11/16	
兵庫県豊岡市	ND	ND	1.5 - 2.9	ND	ND	1.4 - 4.2		ND	1.9 - 4.2	S62/11/27	
奈良県桜井市 <sup>※2</sup>	ND	ND		ND	ND			ND	1.4 - 4.1	H2/3/5	
和歌山県和歌山市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		S63/4/1	
鳥取県湯梨浜町	ND	ND		ND	ND		ND	ND	1.4 - 4.1	H2/10/2	
島根県松江市	ND	ND		ND	ND		-	-	-	H24/3/30	
岡山県岡山市	ND	ND		ND	ND			ND	1.2 - 4.3	H4/1/20	
広島県広島市		ND	1.2 - 2.5		ND	1.2 - 4.5			2.0 - 4.3	H1/4/5	
山口県山口市	ND	ND	2.5 - 5.9	ND	ND	2.7 - 6.0		ND	0.18 - 6.9	S63/11/21	

※1 兵庫県神戸市の採取地点は、平成24年4月より兵庫区から須磨区に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

※2 奈良県の採取地点は、平成25年4月より奈良市から桜井市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(4)

案

γ線スペクトロメーター

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月－令和7年3月			令和3年4月－令和6年3月			平成20年1月－平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
徳島県徳島市	ND	ND	1.5 - 3.3	ND	ND			ND		H2/4/16	
香川県高松市	ND	ND	1.0 - 2.4	ND	ND	1.1 - 4.0		ND	1.8 - 9.8	S63/7/27	
愛媛県八幡浜市	ND	ND	1.6 - 4.1	ND	ND	0.54 - 6.0	-	-	-	H24/4/4	
高知県高知市	ND	ND	1.6 - 3.1	ND	ND	1.4 - 5.1	-	-	-	H24/4/18	
福岡県太宰府市	ND	ND	1.5 - 4.1	ND	ND	1.4 - 5.7	-	-	-	H24/4/24	
佐賀県佐賀市	ND	ND	2.5 - 4.8	ND	ND	1.5 - 5.6		ND	1.9 - 6.2	S63/6/22	
長崎県大村市	ND	ND	1.6 - 3.6	ND	ND	1.4 - 11		ND	1.2 - 19	H2/10/3	
熊本県宇土市	ND	ND	1.8 - 3.1	ND	ND	1.1 - 5.6		ND	2.5 - 5.7	H1/10/11	
大分県大分市	ND	ND	1.3 - 3.5	ND	ND	1.2 - 6.5		ND	1.4 - 6.0	S63/4/1	
宮崎県宮崎市	ND	ND	3.9 - 4.7	ND	ND	2.0 - 6.8		ND	ND - 5.9	S63/7/4	
鹿児島県 薩摩川内市	ND	ND	1.2 - 3.2	ND	ND	1.3 - 5.6	-	-	-	H24/4/20	
沖縄県うるま市 <sup>*</sup>	ND	ND	1.4 - 4.0	ND	ND	1.1 - 6.0		ND	0.98 - 9.2	H17/6/21	

※ 沖縄県の採取地点は、平成29年4月より南城市からうるま市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 大気浮遊じんの調査結果の評価

案

$\gamma$ 線スペクトロメトリーによって大気浮遊じんを分析した結果、一部の調査地点では、人工放射性核種である $^{137}\text{Cs}$ がわずかに検出されたものの、ほとんどの地点において不検出であった。なお、 $^{134}\text{Cs}$ についてはすべての地点で不検出であった。

また、今回の調査結果は、過去の調査結果(①過去3か年度及び②東京電力福島第一原子力発電所事故前のデータ)と比べて特段の変化は見られなかったことから、新たな事象による人工放射性核種の影響は認められなかったものと考えられる。

# 大気降下物の調査結果

水を充填した大型水盤を用いて、一定期間に地上に降ってきた雨やちり等の分析を行うことにより、大気中における放射性物質の状況を把握することができる。

# 大気降下物(離島調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする 調査結果	令和6年4月 – 令和7年3月採取分 4道県 4地点 連續捕集、3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	令和3年4月 – 令和6年3月採取分 4道県 4地点 連續捕集、3か月ごとに分析
比較対象② [東京電力福島第一原子力発電所 事故前3か年]	平成20年1月 – 平成22年12月採取分 4道県 4地点 連續捕集、3か月ごとに分析

4地点は利尻、佐渡関岬、隱岐、五島

# 離島調査における大気降下物の調査結果一覧

案

γ線スペクトロメリー

単位: MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和6年4月－令和7年3月			令和3年4月－令和6年3月			平成20年1月－平成22年12月		
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
利尻	ND	ND	240－450	ND	ND－0.11	180－590	ND	ND－0.20	220－460
佐渡関岬	ND	ND－0.12	110－300	ND	ND－0.19	87－630	ND	ND－0.15	210－910
隱岐	ND	ND	24－140	ND	ND－0.070	42－550	ND	ND－0.12	140－570
五島	ND	ND	78－360	ND	ND	140－480	ND	ND－0.12	150－490

Ge半導体検出器によるγ線スペクトロメリーで検出可能な核種のうち、代表的な人工放射性核種である<sup>134</sup>Cs及び<sup>137</sup>Csを記載した。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取終了日に減衰補正した。

詳細な調査結果は参考資料3に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 大気降下物(水準調査)の評価方法

案

今回の評価対象とする 調査結果	令和6年4月 – 令和7年3月採取分 47都道府県 47地点 連續捕集、1か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	令和3年4月 – 令和6年3月採取分 47都道府県 47地点 連續捕集、1か月ごとに分析
比較対象② [東京電力福島第一原子力発電所 事故前3か年]	平成20年1月 – 平成22年12月採取分 46都道府県 46地点 連續捕集、1か月ごとに分析

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(1)

案

γ線スペクトロメトリー

単位:MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月 - 令和7年3月			令和3年4月 - 令和6年3月			平成20年1月 - 平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
北海道札幌市	ND	ND	42 - 210	ND	ND - 0.044	15 - 290	ND	ND - 0.15	34 - 270	H2/10/1	
青森県青森市	ND	ND	44 - 660	ND	ND - 0.080	28 - 990	ND	ND - 0.18	96 - 550	H3/1/5	
岩手県盛岡市	ND	ND - 0.31	42 - 240	ND	ND - 0.29	51 - 330	ND	ND - 0.10	0.017 - 330	S63/4/1	
宮城県仙台市 <sup>※1</sup>	ND	0.055 - 0.97		ND	0.052 - 2.5			ND	24 - 310	H1/4/3	
秋田県秋田市	ND	ND	58 - 540	ND	ND - 0.073	15 - 720	ND	ND - 0.31	54 - 530	H1/12/31	
山形県山形市	ND	ND - 0.29	36 - 220	ND	ND - 0.39	54 - 300	ND	ND	ND - 260	H1/4/1	
福島県福島市	ND - 0.22	0.4 - 17		ND - 1.3	0.79 - 30		-	-	-	H26/4/3	
茨城県ひたちなか市	ND - 0.12	0.11 - 10	10 - 260	ND - 0.099	0.13 - 3.6	37 - 350	ND	ND - 0.62	10 - 350	S63/4/1	
栃木県宇都宮市	ND	ND - 2.4		ND - 0.066	ND - 2.2		ND	ND - 0.083		S63/1/4	
群馬県前橋市	ND	ND - 0.49	ND - 200	ND - 0.084	0.048 - 2.5	9.3 - 320		ND - 0.12	9.8 - 260	H2/10/23	
埼玉県加須市 <sup>※2</sup>	ND	0.047 - 0.73	6.6 - 200	ND	ND - 0.77	13 - 430		ND - 0.14	23 - 410	H4/1/4	

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

空欄は環境放射線データベースに核種分析結果が登録されていない。

「-」は調査開始前を示す。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

詳細な調査結果は参考資料4に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※1 宮城県の採取地点は、平成25年4月より女川町から仙台市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

※2 埼玉県の採取地点は、平成26年4月よりさいたま市から吉見町に変更され、令和4年4月に加須市に変更された。比較対象①は加須市のデータであり、比較対象②はさいたま市のデータである。

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(2)

案

γ線スペクトロメーター

単位:MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月 - 令和7年3月			令和3年4月 - 令和6年3月			平成20年1月 - 平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
千葉県市原市	ND	ND - 0.30	10 - 300	ND	ND - 0.41	28 - 340	ND	ND - 0.075	14 - 360	H2/10/1	
東京都新宿区	ND	0.073 - 0.88	7.6 - 240	ND - 0.062	0.083 - 0.97	31 - 320	ND	ND	9.6 - 430	H1/10/2	
神奈川県茅ヶ崎市	ND	ND - 0.20	5.2 - 200	ND	ND - 0.49	20 - 320	ND	ND	17 - 380	S52/10/1	
新潟県新潟市	ND	ND	40 - 460	ND	ND - 0.048	19 - 590	ND	ND - 0.082	ND - 540	S63/4/1	
富山県射水市	ND	ND	53 - 740	ND	ND - 0.046	79 - 570		ND - 0.28		S63/3/1	
石川県金沢市	ND	ND	57 - 1100	ND	ND - 0.047	49 - 1800	ND	ND - 0.54	77 - 1600	H2/3/29	
福井県福井市	ND	ND	22 - 1000	ND	ND	21 - 1400		ND - 0.35	52 - 1300	S63/3/30	
山梨県甲府市	ND	ND	4.3 - 190	ND	ND - 0.12	17 - 290	ND	ND	15 - 420	S63/4/1	
長野県長野市	ND	ND	30 - 110	ND	ND - 0.13	24 - 280		ND	13 - 170	S62/11/2	
岐阜県各務原市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		H2/11/1	
静岡県牧之原市 <sup>※</sup>	ND	ND	11 - 360	ND	ND - 0.084	26 - 520	ND	ND	27 - 510	S63/4/1	
愛知県名古屋市	ND	ND	11 - 170	ND	ND	18 - 220		ND	25 - 250	S62/12/1	

※ 静岡県の採取地点は、平成30年5月より静岡市から牧之原市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(3)

案

γ線スペクトロメーター

単位:MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月 - 令和7年3月			令和3年4月 - 令和6年3月			平成20年1月 - 平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
三重県四日市市	ND	ND		ND	ND - 0.076			ND - 0.071		S63/10/1	
滋賀県大津市	ND	ND	22 - 190	ND	ND	30 - 240		ND	26 - 300	H1/11/1	
京都府京都市	ND	ND	14 - 150	ND	ND	30 - 210	ND	ND - 0.32	17 - 300	S63/4/1	
大阪府大阪市	ND	ND	11 - 110	ND	ND	19 - 220		ND	28 - 240	S63/9/30	
兵庫県加古川市 <sup>※1</sup>	ND	ND	7.1 - 100	ND	ND	13 - 150		ND	13 - 180	S62/9/30	
奈良県桜井市 <sup>※2</sup>	ND	ND		ND	ND			ND	16 - 190	H1/12/28	
和歌山県和歌山市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		S63/4/1	
鳥取県湯梨浜町	ND	ND		ND	ND		ND	ND - 0.15	21 - 750	H2/10/1	
島根県松江市	ND	ND - 0.035		ND	ND - 0.063		ND	ND - 0.22	31 - 680	S63/3/31	
岡山県岡山市	ND	ND	7.3 - 140	ND	ND	11 - 180	ND	ND	ND - 170	H4/2/1	
広島県広島市	ND	ND	10 - 150	ND	ND	9.8 - 220		ND - 0.11	6.3 - 280	H1/2/1	
山口県山口市	ND	ND	19 - 250	ND	ND	8.7 - 350		ND - 6.5	30 - 450	S63/10/1	

※1 兵庫県の採取地点は、平成30年4月より神戸市から加古川市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

※2 奈良県の採取地点は、平成25年4月より奈良市から桜井市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(4)

案

γ線スペクトロメーター

単位:MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期	
	令和6年4月 - 令和7年3月			令和3年4月 - 令和6年3月			平成20年1月 - 平成22年12月				
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)		
※1 徳島県徳島市	ND	ND	22 - 120	ND	ND - 0.053			ND		H2/4/1	
香川県高松市	ND	ND	14 - 68	ND	ND	ND - 130	ND	ND	18 - 250	S63/7/1	
※2 愛媛県八幡浜市	ND	ND		ND	ND			ND - 0.13		S63/4/1	
高知県高知市	ND	ND	16 - 290	ND	ND	12 - 840		ND	40 - 540	H1/11/1	
福岡県太宰府市	ND	ND		ND	ND - 0.052		ND	ND - 0.075	34 - 450	H1/10/2	
※3 佐賀県佐賀市	ND	ND	24 - 290	ND	ND	6.0 - 300	ND	ND - 0.20	18 - 420	S63/5/2	
長崎県大村市	ND	ND	5.7 - 210	ND	ND	8.3 - 300	ND	ND - 0.085	15 - 430	H2/12/1	
熊本県宇土市	ND	ND	30 - 170	ND	ND	16 - 340		ND - 0.11	20 - 240	H1/11/1	
大分県大分市	ND	ND	17 - 250	ND	ND	12 - 270		ND	34 - 2700	S63/3/1	
宮崎県宮崎市	ND	ND	32 - 480	ND	ND - 0.062	26 - 520	ND	ND - 0.11	16 - 720	S63/8/1	
鹿児島県 薩摩川内市 ※4	ND	ND	53 - 380	ND	ND	33 - 680	ND	ND - 0.040	21 - 300	S63/5/2	
沖縄県うるま市	ND	ND	8.5 - 240	ND	ND	11 - 330		ND	0.10 - 360	S63/4/1	

※1 徳島県の採取地点は、平成24年4月より石井町から徳島市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

※2 愛媛県の採取地点は、令和4年3月より松山市から八幡浜市に変更された。比較対象①は八幡浜市のデータであり、比較対象②は松山市のデータである。

※3 佐賀県の採取地点は、施設工事に伴い大型水盤が仮移設された(令和6年9月～令和7年3月)。

※4 鹿児島県の採取地点は、平成30年10月より鹿児島市から薩摩川内市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 大気降下物の調査結果の評価

案

γ線スペクトロメリーによって大気降下物を分析した結果、一部の調査地点では、人工放射性核種である<sup>134</sup>Cs及び<sup>137</sup>Csが検出されたものの、これらほとんどの地点においてわずかな検出であった。

また、今回の調査結果は、過去の調査結果(①過去3か年度及び②東京電力福島第一原子力発電所事故前のデータ)と比べて特段の変化は見られなかつたことから、新たな事象による人工放射性核種の影響は認められなかつたものと考えられる。